

内分泌学検査

項目コード	検査項目	採取量(mL) ↓ 提出量(mL)	容器	安定性 保存 方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
2002	成長ホルモン (GH)	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	冷	ECLIA	ng/mL M 2.47 以下 F 0.13~9.88 (負荷前安静時)	108 生Ⅱ	2 3	検体EDTA血漿、ヘパリン血漿も 検査可。 ※04
2007	黄体形成ホルモン (LH)	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	12週 冷	CLIA	mIU/mL 頁下-1参照： [LH/FSH]基準値	108 生Ⅱ	2 3	※04
2008	卵胞刺激ホルモン (FSH)	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	12週 冷	CLIA	mIU/mL 頁下-1参照： [LH/FSH]基準値	108 生Ⅱ	2 3	※04
2009	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	血液 1 ↓ EDTA血漿 0.3	14 02	10週 凍	ECLIA	pg/mL 7.2~63.3 (早朝安静時)	189 生Ⅱ	2 3	検体必ず血漿分離の上、ご提出く ださい。 検体抗凝固剤として必ずEDTAを ご使用ください。 検体溶血検体では測定値が低下傾 向となる場合があります。 ※04
1222	甲状腺刺激ホルモン (TSH)	血液 3	01	常	CLIA (IFCC)	μIU/mL 0.610~4.230	101 生Ⅱ	1 2	透 項目甲状腺刺激ホルモン(TSH) 《CLIA》で得られた値に補正係 数1.09を乗じた測定値です。 項目*1
2001	甲状腺刺激ホルモン (TSH)	血液 2 ↓ 血清 各0.5	01	12週 冷	CLIA	μIU/mL 0.350~4.94	101 生Ⅱ	2 3	透 ※04
27608	甲状腺刺激ホルモン (TSH) 《ECLIA》	血液 各2			ECLIA	μIU/mL 0.500~5.00	101 生Ⅱ	2 3	透 ※04
12433	甲状腺刺激ホルモン (TSH_IFCC) 《ECLIA》	血液 各2 ↓ 血清 各0.4	01	14日 冷	ECLIA	μIU/mL 0.610~4.23	101 生Ⅱ	2 3	透 項目[27608]甲状腺刺激ホルモ ン(TSH)《ECLIA》で得られた値 に補正係数1.00を乗じた測定 値です。 項目*1 ※04

* 1 : 日本臨床検査医学会「甲状腺刺激ホルモン(TSH)値のハーモナイゼー
ションについて」(2020年1月30日)

1 [LH/FSH]基準値

年 齢		LH	FSH
		mean±2S.D.(mIU/mL)	mean±2S.D.(mIU/mL)
男性		0.79 ~ 5.72	2.00 ~ 8.30
女性 (性周期)	卵胞期	1.76 ~ 10.24	3.01 ~ 14.72
	排卵期	2.19 ~ 88.33	3.21 ~ 16.60
	黄体期	1.13 ~ 14.22	1.47 ~ 8.49
	閉経後	5.72 ~ 64.31	157.79 以下

出典(FSH) : 岩佐 武, 他 : 産婦人科治療 87 : 243, 2003.

項目コード	検査項目	採取量(mL) ↓ 提出量(mL)	容器	安定性 保存 方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
下 垂 体	2010 プロラクチン (PRL)	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	12週 冷	CLIA	ng/mL M 3.58~12.78 F 6.12~30.54	98 生II	2 3	※04
	2011 バゾプレシン (AVP) (ADH) (抗利尿ホルモン)	血液 4 ↓ EDTA血漿 1.2	02	凍	RIA(二抗体法)	pg/mL 水制限 4.0 以下 自由飲水 2.8 以下	230 生II	5 7	検体 溶血の影響により測定値が変動する可能性があります。 ※04
	2006 ソマトメジン-C (IGF-I)	血液 2 ↓ 血清 0.4	01 02	4週 凍	ECLIA	ng/mL 52頁-1参照:「ソマトメジン-C」基準値	212 生II	2 3	依頼 性別、年齢を必ず明記してください。 検体 血漿も検査可。 ※04
甲 状 腺	2015 総サイロキシン (T ₄)	血液 2 ↓ 血清 0.4	01	12週 冷	CLIA	μg/dL 4.87~11.72	108 生II	2 3	透 ※04
	27611 総サイロキシン (T ₄) 《ECLIA》	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	8日 冷	ECLIA	μg/dL 6.10~12.4	108 生II	2 3	透 ※04
	2012 トリヨードサイロニン (T ₃)	血液 2 ↓ 血清 0.4	01	12週 冷	CLIA	ng/dL 57~152	99 生II	2 3	透 ※04
	27612 トリヨードサイロニン (T ₃) 《ECLIA》	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	14日 冷	ECLIA	ng/dL 80~160	99 生II	2 3	透 ※04
	1224 遊離サイロキシン (FT ₄)	血液 3	01	常	CLIA	ng/dL 0.70~1.48	124 生II	1 2	透
	27609 遊離サイロキシン (FT ₄) 《ECLIA》	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	7日 冷	ECLIA	ng/dL 0.90~1.70	124 生II	2 3	透 ※04
	1223 遊離トリヨードサイロニン (FT ₃)	血液 3	01	常	CLIA	pg/mL 1.68~3.67	124 生II	1 2	透
	27610 遊離トリヨードサイロニン (FT ₃) 《ECLIA》	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	7日 冷	ECLIA	pg/mL 2.30~4.00	124 生II	2 3	透 ※04
	2018 サイログロブリン (Tg)	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	14日 冷	ECLIA	ng/mL 33.7 以下	131 生II	2 3	※04
	2020 抗サイログロブリン抗体 (Tg-Ab)	血液 2 ↓ 血清 0.4	01	冷	CLIA	IU/mL 4.11 未満	140 免疫	2 3	※04

内分泌

内分泌学検査

項目コード	検査項目	採取量(mL) ←通心↓ 提出量(mL)	容器	安定性 保存 方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
甲状腺	2022 抗甲状腺 ペルオキシダーゼ抗体 (TPO-Ab)	血液 2 ←通心↓ 血清 0.4	01	冷	CLIA	IU/mL 5.61 未満	142 免疫 ¹	2 3	※04
	3197 TSHレセプター抗体定量 (TRAb定量)	血液 1 ←通心↓ 血清 0.3	01	6日 冷	ECLIA	IU/L 2.0 未満	220 免疫 ²	2 3	※04
	2025 TSH刺激性レセプター抗体 (TSAb) (甲状腺刺激抗体)	血液 2 ←通心↓ 血清 0.5	01	4週 冷	EIA	% 120 以下	340 免疫 ²	3 6	検体血清以外は検査不可。 ※04
	2017 サイロキシン結合 グロブリン (TBG)	血液 1 ←通心↓ 血清 0.3	01 02	2週 凍	CLEIA	μg/mL 14~31	130 生Ⅱ	2 5	※04
副甲状腺	2152 カルシトニン (CT)	血液 1 ←通心↓ 血清 0.3	01 02	24ヵ月 凍	ECLIA	pg/mL M 5.15 以下 F 3.91 以下 (空腹時)	133 生Ⅱ	2 3	透 ※04
	3185 副甲状腺ホルモン whole (whole PTH)	血液 2 ←冷凍↓ EDTA血漿 0.4	14 02	6ヵ月 凍	ECLIA	pg/mL 14.9~56.9	165 生Ⅱ ³	2 3	透 項目1-84PTHのみを測定します。 検体必ず血漿分離の上、ご提出ください。 検体PTHは採血後、直ちに冷却下 で血漿を分離することで不活性 化を防ぎます。 検体血清も検査可(急速凝固採血 管による血清は避けてくださ い)。 ※04
	2148 副甲状腺ホルモン intact (PTH-intact)	血液 2 ←冷凍↓ EDTA血漿 0.5	14 02	6ヵ月 凍		pg/mL 10~65			透 項目1-84PTHと7-84PTHを測定 します。 検体必ず血漿分離の上、ご提出ください。 検体PTHは採血後、直ちに冷却下 で血漿を分離することで不活性 化を防ぎます。 検体血清も検査可(急速凝固採血 管による血清は避けてくださ い)。 検体ヘパリン血漿も検査可。 ※04
	2151 副甲状腺ホルモン 関連蛋白intact (PTHrP-intact)	血液 2 ←冷凍↓ 血漿 0.5	08 02	指定容器 4ヵ月 凍	IRMA (ビーズ固相法)	pmol/L 1.1 未満	189 生Ⅱ ⁴	5 7	検体血清は検査不可。 検体必ず血漿分離の上、ご提出ください。 容器 * 1 ※04

* 1 : 専用容器(EDTA・アプロチニン入り)はあらかじめご依頼ください。

1 : 「抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体」と「マイクロゾームテスト(抗マイクロゾーム抗体)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。

2 : 「TSHレセプター抗体」と「TSH刺激性レセプター抗体」を同時に行った場合は、いずれか一方のみ算定できます。

3 : 「副甲状腺ホルモン(PTH)」として一連の算定となります。

4 : 「副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)」として、高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合のみ算定できます。

項目コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器 安定性 保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
2153	オステオカルシン (BGP)	血液 1 血清 0.3	01 4週凍	FEIA	ng/mL 8.3~32.7	157 生Ⅱ 12	2 5	検体 溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。 検体 EDTA血漿も検査可。 項目 * 1 ※04
2154	骨型アルカリフォスファターゼ (BAP)	血液 1 血清 0.3	01 凍	CLEIA	μg/L M 3.7~20.9 F 閉経前 2.9~14.5 閉経後 3.8~22.6	161 生Ⅱ 3	2 3	検体 ヘパリン血漿も検査可。 項目 * 1 ※04
3417	total P1NP (I型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	血液 1 血清 0.3	01 5日冷	ECLIA	μg/L M(30~83歳) 18.1~74.1 F閉経前(30~44歳) 16.8~70.1 閉経後(45~79歳) 26.4~98.2	164 生Ⅱ 3	2 3	検体 溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。 検体 EDTA血漿も検査可。 項目 * 1,2 ※04
3122	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx) (血清)	血液 1 血清 0.3	01 凍	EIA	nmol BCE/L 頁下-1参照: [NTx(血清)]基準値	156 生Ⅱ 2456	3 4	算定 57頁-1参照: 腫瘍関連検査に関する検体検査実施料 注釈 算定 59頁-1参照: 検体検査実施料と悪性腫瘍特異物質治療管理料 項目 * 1 ※04
2952	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx) [骨粗鬆症]	尿 (早朝2番尿) 1.5	25 5日冷	CLEIA	nmol BCE/mmol・Cr M 13.0~66.2 F 閉経前 9.3~54.3 閉経後 14.3~89.0	156 生Ⅱ 2456	3 4	項目 * 1,3 報告 * 4 ※04
3195	TRACP-5b	単独検体 血液 1 血清 0.3	01 凍	EIA	mU/dL M 170~590 F(YAM) 120~420	156 生Ⅱ 2478	2 3	検体 同一検体での他項目との重複依頼は避けください(凍結融解によりデータが低値化傾向にあることが確認されています)。 参考 YAM: 若年者成人平均値 項目 * 1 ※04
2953	デオキシピリジノリン (Dpyr) [骨粗鬆症]	尿 (早朝2番尿) 1.5	25 6週冷	EIA	nmol/mmol・Cr 頁下-2参照: [Dpyr(骨粗鬆症)]基準値	191 生Ⅱ 2456	3 5	項目 遊離型デオキシピリジノリンを測定します。 検体 早朝2番尿をご提出ください。 項目 * 1,3 報告 * 5 ※04

- * 1: [骨形成マーカー]BGP、BAP、total P1NP。
[骨吸収マーカー]NTx、TRACP-5b、Dpyr。
- * 2: ビオチンの影響については、ご利用の手引き「13.検査材料に関するご参考情報」のページをご参照ください。
- * 3: 原発性副甲状腺機能亢進症、あるいは癌の骨転移の診断・治療効果判定指標としての「同名」の各検査項目とは取り扱いが異なります。骨粗鬆症の検査としてご利用の場合は、依頼書上に必ず本欄に記載されている項目コードを明記してください。
- * 4: 濃度が15.0nmol BCE/L未満の場合、クレアチニン補正值は「換算不可」でご報告します。
- * 5: 濃度が3.0nmol/L未満の場合、クレアチニン補正值は「換算不可」でご報告します。
- 1: 続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定および原発性または続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術後の治療効果判定に際して実施した場合のみ算定できます。
- 2: 「オステオカルシン」、[NTx]、「Dpyr」を併せて実施した場合は、主な項目の実施料のみ算定できます。
- 3: 「BAP」、「Intact P I NP」、「ALPアイソザイム(PAG電気泳動法)」および「total P1NP」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。
- 4: 乳癌、肺癌または前立腺癌と既に診断された患者に対し骨転移診断のために行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合には、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」として算定します。
- 5: (原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定または)骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定できます。
- 6: 骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回に限り算定できます。
- 7: 代謝性骨疾患および骨転移(代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る)の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できます。
- 8: 治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できます。

1 「NTx (血清)」基準値

	正常参考値 (nmol BCE/L)	判定基準 (nmol BCE/L)
男性	40~59歳: 9.5~17.7	骨量低下リスクのカットオフ値: 13.6 骨折リスクのカットオフ値: 16.5
女性	閉経前40~44歳: 7.5~16.5	
	閉経後45~79歳: 10.7~24.0	

出典: 日本骨粗鬆症学会: Osteoporosis Japan 12: 191, 2004.
試薬添付文書

2 「Dpyr (骨粗鬆症)」基準値

	正常参考値 (nmol/mmol・Cr)	判定基準 (nmol/mmol・Cr)
男性	2.1 ~ 5.4	骨量低下リスクのカットオフ値: 5.9 骨折リスクのカットオフ値: 7.6
女性	2.8 ~ 7.6	

出典: 日本骨粗鬆症学会: Osteoporosis Japan 12: 191, 2004.

内分泌学検査

項目コード	検査項目	採取量(mL) ↓ 提出量(mL)	容器	安定性 保存 方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
3179	低カルボキシル化 オステオカルシン (ucOC)	溶血 血液 1 ↓ 血清 0.3	01 ↓ 02	凍	ECLIA	4.50 未満 ng/mL	154 生II 1	3 ~ 5	検体 溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。 ※04
3480	25-OHビタミンD [くる病]	血液 各2 ↓ 血清 各0.5	01	4日 冷	ECLIA	ng/mL	117 生I 2	2 ~ 3	基準 * 1 ※04
3769	25-OHビタミンD (Total) [骨粗鬆症]	血液 各2 ↓ 血清 各0.5	01	4日 冷	ECLIA	ng/mL ビタミンD欠乏 20.0 未満 ビタミンD不足 20.0~29.9	117 生I 3,4	2 ~ 3	※04
3355	25-OHビタミンD分画	血液 1 ↓ 血清 0.3	01 ↓ 02	4週 凍	LC-MS/MS	D ₂ 12.1 以下 D ₃ 5.5~41.4 ng/mL	—	6 ~ 12	検体 分離剤入り容器で採血し、遠心後に分注をお願いします。 ※04
2911	1α,25-(OH) ₂ ビタミンD	血液 3 ↓ 血清 1	01 ↓ 02	凍	RIA(二抗体法)	20~60 pg/mL	388 生I 5,6	3 ~ 6	透 ※04
2039	カテコール アミン3分画	血液 3 ↓ EDTA血漿 1	14 ↓ 02	10日 凍	HPLC	ng/mL 頁下-1参照：「カテ コールアミン3分画・ 遊離カテコールアミン 3分画」基準値	165 生II 7	3 ~ 4	検体 採血後、速やかに血漿分離の後、-20℃以下の条件でご提出ください。 検体 * 2 ※04
2040	遊離カテコールアミン 3分画	酸性蓄尿 1	25	4週 冷		μg/day 頁下-1参照：「カテ コールアミン3分画・ 遊離カテコールアミン 3分画」基準値			検体 * 3 ※04
27341	遊離カテコールアミン 3分画	酸性蓄尿 1	25	5日 冷		μg/day 頁下-1参照：「カテ コールアミン3分画・ 遊離カテコールアミン 3分画」基準値			※04

内分泌

- * 1 : 日本小児内分泌学会の「ビタミンD欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き」には、診断基準(血清25OHD低値)として下記が記載されています。
 - ・ 20 ng/mL 以下
 - ・ 15 ng/mL 以下 であればより確実
- * 2 : 穿刺のストレスのみで増加するため肘静脈に留置針をあらかじめ挿入することが望ましいです。30分以上安静臥床後に採血します。
- * 3 : 「6mol/L塩酸(6N)約20mL(蓄尿1リットル当たり)」または「酸性ユリメジャー・T(関東化学株式会社製)」を加え冷所に蓄尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出ください(左記はいずれも市販品です。貴院にてあらかじめご購入ください)。
- 1 : 骨粗鬆症におけるビタミンK₂剤の治療選択目的で行った場合または治療経過観察を行った場合に算定できます。ただし、治療開始前においては1回、その後は6月以内に1回に限り算定できます。

- 2 : ビタミンD欠乏性くる病もしくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時またはそれらの疾患に対する治療中に測定した場合にのみ算定できます。ただし、診断時においては1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できます。
- 3 : 原発性骨粗鬆症の患者に対して薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定できます。
- 4 : 本検査を行う場合には、関連学会が定める実施方針を遵守してください。
- 5 : 慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症Ⅰ型もしくは低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時、またはそれらの疾患に対する活性型ビタミンD₃剤による治療中に測定した場合にのみ算定できます。
- 6 : ビタミンD₃剤による治療開始後1月以内は2回、その後は3月に1回を限度として算定できます。
- 7 : 「カテコールアミン分画」として一連の算定となります。

1 「カテコールアミン3分画・遊離カテコールアミン3分画」基準値

分画成分名	カテコールアミン3分画		遊離カテコールアミン3分画 (μg/day)
	〈血漿〉(ng/mL)	〈尿〉(μg/day)	
アドレナリン (A)	0.17以下	1.1 ~ 22.5	0.6 ~ 14.1
ノルアドレナリン (NA)	0.15 ~ 0.57	29.2 ~ 118	9.7 ~ 41.4
ドーパミン (DA)	0.03以下	100 ~1,000	120 ~ 310

項目コード	検査項目	採取量(mL) → 提出量(mL)	容器	安定性 保存 方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
2048	メタネフリン2分画	酸性蓄尿 2	25	4週 冷	LC-MS/MS	mg/day MN1日量 0.05~0.20 NMN1日量 0.10~0.28 MN総1日量 0.15~0.41	220 生Ⅱ	3 4	報告メタネフリン濃度(mg/L)、フルメタネフリン濃度(mg/L)もご報告します。 検体 * 1 ※04
2044	バニリル マンデル酸 (VMA)	〈尿〉 酸性蓄尿 1	25	4週 冷	LC-MS/MS	mg/day 1.4~4.9	90 生Ⅱ	3 4	報告バニリルマンデル酸濃度(mg/L)もご報告します。 検体 * 1 ※04
3338		〈クレアチニン補正〉 尿 1	25	冷		μg/mg・Cr 1.2~4.9 頁下-1参照：正常児参考基準値			報告バニリルマンデル酸濃度(mg/L)およびクレアチニン値(mg/dL)もご報告します。 ※04
2046	ホモバニリン酸 (HVA)	〈尿〉 酸性蓄尿 1	25	4週 冷	LC-MS/MS	mg/day 1.6~5.5	69 生Ⅱ	3 4	報告ホモバニリン酸濃度(mg/L)もご報告します。 検体 * 1 ※04
3339		〈クレアチニン補正〉 尿 1	25	冷		μg/mg・Cr 1.6~5.5 頁下-1参照：正常児参考基準値			報告ホモバニリン酸濃度(mg/L)およびクレアチニン値(mg/dL)もご報告します。 ※04
2041	ドーパミン・総	血液 5 EDTA血漿 2	14 02	冷 凍	HPLC	ng/mL 0.5~6.2	—	6 11	検体必ず血漿分離の上、ご提出ください。 ※04
2049	セロトニン (5-HT)	〈血液〉 単独検体 EDTA加血液 0.6	14	凍	LC-MS/MS	ng/mL 52.8~200	—	3 9	検体必ず専用検体としてご提出ください。 保存ガラス管の場合は、プラスチック容器に移してから凍結してください。 ※04
2050		〈血漿〉 EDTA加血液 2 多血小板血漿 (PRP) 0.6	14 02	冷 凍		ng/mL 623 以下			検体採血後、4℃、900rpm、20分遠心分離によりPRPを採取してください。 ※04
2052	5-ヒドロキシ インドール酢酸 (5-HIAA)	〈尿〉 酸性蓄尿 1	25	4週 冷	LC-MS/MS	mg/day 0.6~4.1	95 生Ⅱ	3 4	報告5-HIAA濃度(mg/L)もご報告します。 検体 * 1 ※04
3550		〈クレアチニン補正〉 尿 1	25	冷		μg/mg・Cr 0.4~3.5			報告5-HIAA濃度(mg/L)およびクレアチニン値(mg/dL)もご報告します。 ※04

* 1 : 「6mol/L塩酸(6N)約20mL(蓄尿1リットル当たり)」または「酸性ユリメジャー・T(関東化学株式会社製)」を加え冷所に蓄尿し、よく混

和後、尿量測定の上、所定量をご提出ください(左記はいずれも市販品です。貴院にてあらかじめご購入ください)。

1 「尿中VMA/HVA(クレアチニン補正)」正常児参考基準値

月 齢	VMA(μg/mg・Cr) mean±S.D	HVA(μg/mg・Cr) mean±S.D
1 ~ 3	8.6 ± 4.10	18.1 ± 6.18
4	8.9 ± 3.35	18.2 ± 4.79
5	9.1 ± 3.20	17.9 ± 4.96
6	9.1 ± 3.25	17.5 ± 4.88
7	9.0 ± 3.29	17.2 ± 5.16
8	8.8 ± 3.43	16.6 ± 5.42
9	8.6 ± 3.20	16.7 ± 5.28
10	8.8 ± 3.32	16.4 ± 5.40
11 ~ 12	8.3 ± 3.44	16.1 ± 5.54
1 ~ 12	9.1 ± 3.38	17.4 ± 4.98

出典：沼田公介，他：小児科診療 12, 2921, 1990.

内分泌学検査

項目コード	検査項目	採取量(mL) ↓ 提出量(mL)	容器	安定性 保存 方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
2155	血漿レニン活性 (PRA)	血液 2 ↓ EDTA血漿 0.6	14 ↓ 02	4週 凍	EIA	ng/mL/hr 臥位 0.2~2.3 座位 0.2~3.9 立位 0.2~4.1	100 生Ⅱ	3 ↓ 4	検体必ず血漿分離の上、ご提出ください。 検体溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。 検体 * 1,2 参考 * 3 ※04
3776	レニン濃度 (ARC)	血液 2 ↓ EDTA血漿 0.5	14 ↓ 02	1ヵ月 凍 -20℃以下	CLEIA	pg/mL 2.21~39.49	105 生Ⅱ	2 ↓ 3	項目活性型を測定します。 検体採血後、できるだけ速やかに遠心分離してください。 検体血漿分離後、-20℃以下の条件で速やかに凍結してください。 検体血清も検査可。 検体 * 1,4 参考 * 3 ※04
3777	アルドステロン	血液 2 ↓ EDTA血漿 0.5	14 ↓ 02	凍	CLEIA	pg/mL 4.0~82.1	125 生Ⅱ	2 ↓ 3	検体採血後、できるだけ速やかに遠心分離してください。 検体血清も検査可。 検体 * 1 参考 * 3 ※04
3778		蓄尿 2	25	凍		μg/day 1.0~19.3		3 ↓ 5	検体蓄尿時は冷暗所に保管してください(塩酸およびC-ペプチド安定化剤は使用しないでください)。 検体検体提出時は凍結してご提出ください。 参考 * 3 ※04
3780	アルドステロン/ レニン活性比				計算法	200 未満 (境界域: 100~200未満)	—	3 ↓ 4	依頼下記3項目を同時にご依頼ください。 ・アルドステロン/レニン活性比 ・アルドステロン(血漿) ・血漿レニン活性(PRA) 参考 * 3 ※04
3779	アルドステロン/ レニン濃度比					40 未満 (境界域: 20~40未満)		2 ↓ 3	依頼下記3項目を同時にご依頼ください。 ・アルドステロン/レニン濃度比 ・アルドステロン(血漿) ・レニン濃度(ARC) 参考 * 3 ※04
2893	アンジオテンシン I 転換酵素 (ACE)	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	4週 冷	笠原法	IU/L 7.7~29.4	140 生Ⅰ	1 ↓ 2	検体EDTA血漿は検査不可。 検体 * 5 ※04
2058	コルチゾール	血液 1 ↓ EDTA血漿 0.3	14 ↓ 02	12週 冷	CLIA	μg/dL 3.7~19.4 (午前10時以前)	124 生Ⅱ	2 ↓ 3	検体血清も検査可。 ※04
2059		蓄尿 0.5	25	冷		μg/day 5.5~66.7		2 ↓ 4	項目非抱合型コルチゾールを測定します。 検体蓄尿時は冷暗所に保管してください。 ※04

- * 1 : 採血時刻、安静度、体位によって測定値に差が出ますので、早朝空腹時30分間安静後の採血を推奨します。
- * 2 : 臥位は30分以上横になった状態での採血を推奨します。
- * 3 : 結果の解釈は、日本内分泌学会「原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」をご参照ください。
- * 4 : 氷結点(0℃)前後では冷却活性化によるレニン濃度の上昇が認められます。

① : 「血漿レニン活性(PRA)」、「レニン濃度(ARC)」を同時に測定した場合はいずれか一方のみの算定となります。

項目コード	検査項目	採取量(mL) → 提出量(mL)	容器	安定性 保存 方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
01038	17-ケトステ ロイド分画 (17-KS分画)	3分画	蓄尿 各5	25	4週 冷	GC-MS/MS	mg/day 213 生Ⅱ	5 7	※04 依頼分画数をご指定ください。 検体 蓄尿時は冷暗所に保管して ください(保存剤による影響はあ りません)。 ※04
3280		7分画							
07485	ステロイド10分画	蓄尿 5	25	4週 冷	GC-MS/MS	mg/day —	—	5 7	※04 依頼分画数をご指定ください。 検体 蓄尿時は冷暗所に保管して ください(保存剤による影響はあ りません)。 ※04 項目 * 1
2064	デハイドロ エピandroステ ロン サルフェート (DHEA-S)	血液 1 血清 0.3	01	3週 冷	CLEIA	μg/dL 169 生Ⅱ	—	2 3	※04

* 1 : [分画範囲]

17-ケトステロイド7分画、プレグナンジオール、プレグナントリ
オール、プレグナントリオロン

1 [17-KS分画]基準値

7 分 画	3 分 画	分画成分名	男性(mg/day)	女性(mg/day)
		アンドロステロン	1.12 ~ 4.71	0.22 ~ 2.78
		エチオコラノン	0.43 ~ 3.23	0.10 ~ 2.39
		デハイドロエピandroステロン	2.92 以下	1.49 以下
		11-ケトandroステロン	0.50 以下	0.48 以下
		11-ケトエチオコラノン	0.08 ~ 0.63	0.62 以下
		11-aidロキシandroステロン	0.39 ~ 2.04	0.19 ~ 1.17
		11-aidロキシエチオコラノン	0.54 以下	0.75 以下

2 [ステロイド10分画]基準値

ス テ ロ イ ド 1 0 分 画	分画成分名	男性(mg/day)	女性(mg/day)
	アンドロステロン	1.12 ~ 4.71	0.22 ~ 2.78
	エチオコラノン	0.43 ~ 3.23	0.10 ~ 2.39
	デハイドロエピandroステロン	2.92 以下	1.49 以下
	11-ケトandroステロン	0.50 以下	0.48 以下
	11-ケトエチオコラノン	0.08 ~ 0.63	0.62 以下
	11-aidロキシandroステロン	0.39 ~ 2.04	0.19 ~ 1.17
	11-aidロキシエチオコラノン	0.54 以下	0.75 以下
	プレグナンジオール	0.12 ~ 0.93	(卵胞期) 0.16 ~ 1.28 (黄体期) 0.69 ~ 4.70 (閉経後) 1.00 以下
	プレグナントリオール	0.25 ~ 1.48	(卵胞期) 0.07 ~ 1.24 (黄体期) 0.25 ~ 1.58 (閉経後) 1.00 以下
プレグナントリオロン	0.5 以下	0.5 以下	

3 [DHEA-S]基準値

年 齢		DHEA-S(μg/dL)
男 性	20~29歳	159 ~ 538
	30~39歳	125 ~ 475
	40~49歳	123 ~ 422
	50~59歳	76 ~ 386
女 性	20~29歳	92 ~ 399
	30~39歳	58 ~ 327
	40~49歳	41 ~ 218
	50~59歳	30 ~ 201

内分泌学検査

項目コード	検査項目	採取量(mL) ↓ 提出量(mL)	容器	安定性 保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考
2079	プレグナンジオール (P ₂)	蓄尿 5	25	4週 冷	GC-MS/MS	mg/day M 0.12~0.93 F 卵泡期 0.16~1.28 黄体期 0.69~4.70 閉経後 1.00 以下	213 生II	5 ~ 7	検体 蓄尿時は冷暗所に保管してください(保存剤による影響はありません)。 ※04
2080	プレグナントリオール (P ₃)	蓄尿 5	25	4週 冷	GC-MS/MS	mg/day M 0.25~1.48 F 卵泡期 0.07~1.24 黄体期 0.25~1.58 閉経後 1.00 以下	232 生II	5 ~ 7	検体 蓄尿時は冷暗所に保管してください(保存剤による影響はありません)。 ※04
2081	テストステロン	血液 ↓ 血清 0.5	2 01	12週 冷	CLIA	ng/mL M 1.92~8.84 F 閉経前 0.15~0.44 閉経後 0.12~0.31	122 生II	2 ~ 3	依頼 性別、年齢を必ず明記してください。 検体 午前中(9~12時)に採血してください。 ※04
2084	遊離テストステロン	血液 ↓ 血清 0.3	1 01 ↓ 2ヵ月 凍	02	RIA (チューブ固相法)	pg/mL 頁下-1参照:「遊離テストステロン」基準値	159 生II	2 ~ 5	依頼 性別、年齢を必ず明記してください。 検体 午前中(9~12時)に採血してください。 ※04
2077	プロジェステロン (P ₄)	血液 ↓ 血清 0.3	1 01	12週 冷	CLIA	ng/mL 頁下-2参照:「プロジェステロン」基準値	147 生II	2 ~ 3	依頼 妊娠の有無、妊娠週数を必ず明記してください。 ※04
2073	エストラジオール (E ₂)	血液 ↓ 血清 0.5	2 01	12週 冷	CLIA	pg/mL 頁下-3参照:「エストラジオール」基準値	172 生II	2 ~ 3	依頼 妊娠の有無、妊娠週数を必ず明記してください。 ※04
3219	抗ミューラー管ホルモン (AMH)	血液 ↓ 血清 0.5	2 01 ↓ 02	凍	CLEIA	ng/mL 52頁-2参照:「抗ミューラー管ホルモン (AMH)」参考基準値	600 生II	3 ~ 6	※04

内分泌

性腺

①: 不妊症の患者に対して、調節卵巣刺激療法における治療方針の決定を目的として測定した場合に、6月に1回に限り算定できます。

① 「遊離テストステロン」基準値

年齢	男性(pg/mL)	女性(pg/mL)
20~29歳	7.6 ~ 23.8	0.4 ~ 2.3
30~39歳	6.5 ~ 17.7	0.6 ~ 2.5
40~49歳	4.7 ~ 21.6	0.3 ~ 1.8
50~59歳	4.6 ~ 19.6	0.8 ~ 1.7 (50歳以上)
60~69歳	5.3 ~ 11.5	
70歳以上	4.6 ~ 16.9	

② 「プロジェステロン」基準値

		(ng/mL)
男	性	0.6 以下
女	性	0.4 以下
	性	3.7 以下
	性	8.5 ~ 21.9
妊	前	23.9 ~ 141
	中	25.7 ~ 143
	後	51.2 ~ 326

③ 「エストラジオール」基準値

		(pg/mL)
男	性	19 ~ 51
女	性	19 ~ 226
	性	49 ~ 487
	性	78 ~ 252
	性	39 以下
妊	前	780 ~ 16,600
	中	1,150 ~ 36,600
	後	5,450 ~ 44,900

項目コード	検査項目	採取量(mL) ↓ 提出量(mL)	容器	安定性 保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
2085	ヒト絨毛性 ゴナドトロピン (HCG)	血液 2 ↓ 血清 0.4	01	12週 冷	FEIA	mIU/mL 頁下-1参照：「HCG」 基準値	134 生Ⅱ 1	2 3	依頼 妊娠の有無、妊娠週数を必ず 明記してください。 ※04
2086		尿 0.4							
2091	子宮頸管粘液中 顆粒球エラストラーゼ	子宮頸管粘液	71	指定容器 12週 凍	LA (ラテックス凝集比濁法)	1.60 以下	119 尿便 2	2 3	検体 必ず専用の採取器具を用い、 抽出・濾過検体をご提出くださ い。 検体 検体採取は陰洗浄前に行つて ください。 ※04
05496	頸管腔分泌液中 癌胎児性フィブロンネクチン	頸管腔分泌液	90	指定容器 4週 凍	EIA	陰性(-)	204 免疫 3	2 4	検体 必ず専用の採取器具を用い、 抽出・濾過検体をご提出くださ い。 検体 検体採取は陰洗浄前に行つて ください。 検体 * 1,2 ※04
2026	インスリン (IRI)	溶血 血液 1 ↓ 血清 0.3	01	12週 冷	CLIA	1.7~10.4 (空腹時負荷前) 頁下-2参照：「インス リン《CLIA》」参考基準 値	103 生Ⅱ 3	2 3	検体 溶血検体は検査不可。 ※04
3193	インスリン抗体	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	冷	RIA	¹²⁵ I-insulin結合率 0.4 % 未満 濃度 125 nU/mL 未満	110 免疫 6	3 6	※04
2030	抗GAD抗体	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	2週 冷	EIA	5.0 未満	134 生Ⅱ 4	2 4	※04
3276	抗IA-2抗体	血液 2 ↓ 血清 0.4	01	冷	EIA	0.6 未満	213 生Ⅱ 5	3 9	※04

内分
泌

- * 1 : 検体中に精液が混入している場合は、その検体は使用しないください。
- * 2 : 検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。
- 1 : 「HCG定性」「遊離HCG-β」を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定できます。
- 2 : 絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上、満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合に算定できます。
- 3 : 破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合または切迫早産の診断のために妊娠満22週以上満33週未満の者を対象とし実施した場合のみ算定できます。

- 4 : すでに糖尿病の診断が確定した患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合または自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できません。
- 5 : すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、「抗GAD抗体」陰性が確認された患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定できます。算定するに当たっては「抗GAD抗体」の結果、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄へ記載する必要があります。

1 「HCG」基準値

	血清(mIU/mL)	尿(mIU/mL)
男性	1.0 以下	2.5 以下
女性(非妊婦)	1.0 以下	2.5 以下
妊婦	~6週	4,700 ~ 87,200
	7~10週	6,700 ~ 202,000
	11~20週	13,800 ~ 68,300
	21~40週	4,700 ~ 65,300

2 「インスリン《CLIA》」参考基準値

	例数	75g OGTT (μU/mL)
空腹時負荷前	296	1.7 ~ 10.4
30分	302	13.3 ~ 109
60分	288	8.0 ~ 91.3
120分	301	3.4 ~ 60.9
180分	33	1.0 ~ 14.8

基準値設定対象
 NGT (日本糖尿病学会診断基準 (1999年))
 BMI : 普通 (日本肥満学会判定基準 (1999年))
 年齢21~64歳 (平均±S.D. : 23.2±3.6)

内分泌学検査

項目コード	検査項目	採取量(mL) ↓ 提出量(mL)	容器	安定性 保存 方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考		
2027	C-ペプチド (CPR)	血液	2	01	4週 冷	ng/mL 0.6~1.8 (空腹時負荷前)	108	2 3	透 検体 急速凝固採血管による血清は 避けてください。 ※04		
		血清	0.4								
		蓄尿	0.4								
2028	C-ペプチド (CPR)	またほ	16	12週 凍	CLIA	μg/day 20.1~155	生 II	透 検体 全尿保存の場合は、必ず専用 保存剤を添加してください。 検体2 * 1			
		部分尿	0.4	16					12週 凍		
3783	膵グルカゴン (IRG)	血液	2	08	EIA	pg/mL 5.4~55.0 (空腹時)	150	3 9	透 検体 溶血の影響により測定値が低 値となる可能性があります。 検体 乳びの影響により測定値が高 値となる可能性があります。 ※04		
		血漿	0.4	02	凍		生 II				
2160	ヒト心房性Na利尿 ペプチド (hANP)	血液	2	08	12週 凍	FEIA	pg/mL 43.0 以下	221	2 3	透 検体 必ず血漿分離の上、ご提出く ださい。 検体 溶血の影響により測定値が低 値となる可能性があります。 検体 * 2 容器 * 3 ※04	
		血漿	0.3	02							
1249	脳性Na利尿 ペプチド (BNP)	血液	2	14	02	凍	133	2 3	透 検体 必ず血漿分離の上、ご提出く ださい。 ※04		
		EDTA血漿	0.5								
3177	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド 前駆体N端フラグメント (NT-proBNP)	血液	1	01	6日 冷	ECLIA	pg/mL 125 以下	136	3 4 5	透 検体 EDTA血漿も検査可。 基準値は心不全除外のカット オフ値です。 ※04	
		血清	0.3				生 II				
2181	エリスロポエチン (EPO)	血液	3	01	12週 凍	CLEIA	mIU/mL 4.2~23.7	209	2 3		
		血清	0.7	02							
							生 II				

内分泌

その他

- * 1 : 部分尿の場合は濃度(単位: μg/L)をご報告します(その場合、基準値はありません)。
- * 2 : 長時間全血のままの放置は避けてください。EDTA採血の場合は、直ちに分離の上、凍結保存してください。
- * 3 : 専用容器(EDTA・アプロチニン入り)はあらかじめご依頼ください。
 - ① : 血液および尿の検体を同時に測定した場合は、血液の所定点数のみを算定できます。
 - ② : 「BNP」、「NT-proBNP」、「hANP」のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から1週間以内に併せて実施した場合は、主たる1項目のみ算定できます。
 - ③ : 「BNP」、「NT-proBNP」、「hANP」のうち2項目以上を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に各々の検査の実施日を記載してください。

- ④ : 「BNP」、「NT-proBNP」、「hANP」のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定できます。
- ⑤ : 心不全の診断または病態把握のために実施した場合に、月1回に限り算定できます。
- ⑥ : 赤血球増加症の鑑別診断、重度の慢性腎不全患者またはエリスロポエチン、ダルベポエチン、エポエチンベータペゴルもしくはHIF-PH阻害薬の投与前の透析患者における腎性貧血の診断、および骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定のために行った場合に算定できます。

項目コード	検査項目	採取量(mL) ↓ 提出量(mL)	容器	安定性 保存 方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
2179	肝細胞増殖因子 (HGF)	血液 1 ↓ 血清 0.3	01 ↓ 02		EIA	ng/mL 0.39 以下	227 生 I 1	2 ~ 8	※04
27690	FGF23	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 ↓ 02	30日	CLEIA	pg/mL 30 未満	788 生 I 2	3 ~ 5	検体 急速凝固採血管による採血は、低下傾向となりますので避けてください。 基準 健常者参考値:19.9~52.9 pg/mL 検体 * 1 参考 * 2 ※04
2167	サイクリックAMP (c-AMP)	血液 2 ↓ EDTA血漿 0.4	14 ↓ 02	12週	RIA (DCC法)	pmol/mL 6.4~20.8	170 生 II	4 ~ 10	検体 必ず血漿分離の上、ご提出ください。 ※04
2168		蓄尿 1	25	12週		μmol/day 3.3~6.1		検体 蓄尿時はトルエン1~2mLを加え、冷所に蓄尿し、よく混和し所定量をご提出ください。 検体 塩酸蓄尿も検査可。 ※04	
新 12513	sFlt-1/PlGF比	血液 2 ↓ 血清 0.6	01 ↓ 02	6ヵ月	ECLIA	sFlt-1/PlGF比 ≤38.0: 1週間以内のPEの非発症予測 >38.0: 4週間以内のPEの発症予測	340 免疫 3 4	2 ~ 5	報告 sFlt-1 (濃度)、PlGF (濃度)、sFlt-1/PlGF比の3つの値をご報告します。 ※04

その他

内分泌

- * 1 : 抗ヒト型FGF23抗体治療薬投与後は、測定値に大きく影響します。
- * 2 : 低リン血症を示すくる病・骨軟化症において、測定値が30pg/mL以上の場合はFGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症が疑われます。(くる病・骨軟化症の診断マニュアルより)
- 1 : 肝炎の劇症化が疑われる場合、または劇症肝炎の経過観察に用いた場合のみ算定できます。
- 2 : FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症の診断時または治療効果判定時に測定した場合に限り、算定できます。ただし、診断時には1回に限り、その後は腫瘍性骨軟化症の場合には腫瘍摘出後に1回、薬剤性の場合には被疑薬中止後に1回を限度として算定できません。
- 3 : 妊娠18週から36週未満の妊娠高血圧腎症が疑われる妊婦であって、以下のリスク因子のうちいずれか1つを有するものに対して実施した場合に、原則として一連の妊娠につき1回に限り算定できます。な

- お、リスク因子を2つ以上有する場合は、原則として当該点数は算定できません。
- (イ) 収縮期血圧が130mmHg 以上または拡張期血圧80mmHg 以上
- (ロ) 蛋白尿
- (ハ) 妊娠高血圧腎症を疑う臨床症状または検査所見
- (ニ) 子宮内胎児発育遅延
- (ホ) 子宮内胎児発育遅延を疑う検査所見
- 4 : 本検査を算定する場合は、上記のリスク因子のいずれに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。また、上記の(ハ)または(ホ)に該当する場合は、その医学的根拠を併せて記載してください。なお、医学的な必要性から、リスク因子を2つ以上有する妊婦において算定する場合、または一連の妊娠につき2回以上算定する場合は、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。

内分泌学検査

1 「ソマトメジン-C」基準値

男性 (ng/mL)						女性 (ng/mL)					
年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD
0	11 ~ 149	26	119 ~ 329	52	86 ~ 242	0	15 ~ 154	26	146 ~ 336	52	78 ~ 213
1	14 ~ 148	27	116 ~ 322	53	85 ~ 240	1	23 ~ 186	27	141 ~ 328	53	77 ~ 212
2	18 ~ 154	28	114 ~ 315	54	84 ~ 239	2	32 ~ 213	28	137 ~ 320	54	76 ~ 211
3	24 ~ 164	29	111 ~ 309	55	84 ~ 238	3	40 ~ 227	29	133 ~ 312	55	75 ~ 210
4	32 ~ 176	30	109 ~ 303	56	83 ~ 237	4	48 ~ 238	30	129 ~ 304	56	74 ~ 208
5	44 ~ 193	31	107 ~ 297	57	82 ~ 236	5	56 ~ 252	31	126 ~ 297	57	73 ~ 207
6	55 ~ 215	32	105 ~ 292	58	81 ~ 235	6	69 ~ 287	32	122 ~ 290	58	72 ~ 205
7	63 ~ 247	33	103 ~ 287	59	80 ~ 233	7	89 ~ 357	33	119 ~ 283	59	71 ~ 203
8	72 ~ 292	34	102 ~ 283	60	79 ~ 232	8	111 ~ 438	34	115 ~ 277	60	70 ~ 201
9	84 ~ 350	35	100 ~ 279	61	77 ~ 230	9	133 ~ 517	35	112 ~ 271	61	69 ~ 198
10	99 ~ 423	36	99 ~ 275	62	76 ~ 228	10	155 ~ 588	36	109 ~ 265	62	68 ~ 196
11	113 ~ 499	37	97 ~ 272	63	75 ~ 226	11	175 ~ 638	37	106 ~ 260	63	66 ~ 194
12	125 ~ 557	38	96 ~ 269	64	73 ~ 224	12	188 ~ 654	38	103 ~ 254	64	65 ~ 191
13	133 ~ 579	39	95 ~ 266	65	72 ~ 221	13	193 ~ 643	39	100 ~ 250	65	64 ~ 188
14	138 ~ 570	40	94 ~ 263	66	70 ~ 219	14	193 ~ 625	40	98 ~ 245	66	62 ~ 186
15	141 ~ 552	41	94 ~ 261	67	68 ~ 216	15	192 ~ 614	41	95 ~ 240	67	61 ~ 183
16	142 ~ 543	42	93 ~ 259	68	66 ~ 213	16	192 ~ 611	42	93 ~ 236	68	60 ~ 180
17	142 ~ 540	43	92 ~ 257	69	65 ~ 209	17	191 ~ 599	43	90 ~ 233	69	59 ~ 177
18	142 ~ 526	44	92 ~ 255	70	63 ~ 206	18	188 ~ 574	44	88 ~ 229	70	57 ~ 175
19	143 ~ 501	45	91 ~ 253	71	61 ~ 202	19	182 ~ 539	45	87 ~ 226	71	56 ~ 172
20	142 ~ 470	46	90 ~ 250	72	58 ~ 198	20	175 ~ 499	46	85 ~ 224	72	55 ~ 170
21	139 ~ 436	47	90 ~ 250	73	56 ~ 194	21	168 ~ 459	47	83 ~ 221	73	54 ~ 167
22	135 ~ 405	48	89 ~ 248	74	54 ~ 190	22	161 ~ 425	48	82 ~ 219	74	53 ~ 165
23	131 ~ 379	49	88 ~ 246	75	52 ~ 185	23	155 ~ 397	49	81 ~ 218	75	52 ~ 163
24	128 ~ 356	50	87 ~ 245	76	50 ~ 181	24	151 ~ 375	50	80 ~ 216	76	50 ~ 160
25	125 ~ 337	51	87 ~ 243	77	48 ~ 177	25	147 ~ 358	51	79 ~ 215	77	49 ~ 158

内分泌

2 「抗ミュラー管ホルモン (AMH)」参考基準値

AMH測定値の年齢別分布 (中央値) ※RI : Reference Interval

年齢 (歳)	N (例)	中央値 (ng/mL)	95%RI (基準範囲) (ng/mL)
≤27	558	4.69	0.76 ~ 14.18
28	387	4.27	0.84 ~ 12.44
29	555	4.14	0.86 ~ 11.97
30	663	4.02	0.79 ~ 12.74
31	865	3.85	0.44 ~ 13.08
32	872	3.54	0.62 ~ 13.87
33	959	3.32	0.40 ~ 12.76
34	1,064	3.14	0.38 ~ 11.16
35	1,191	2.62	0.37 ~ 10.18
36	1,122	2.50	0.33 ~ 9.93
37	1,154	2.27	0.24 ~ 8.50
38	1,230	1.90	0.11 ~ 7.81
39	1,176	1.80	0.13 ~ 7.45
40	1,057	1.47	0.08 ~ 6.13
41	888	1.30	0.06 ~ 5.52
42	715	1.00	0.05 ~ 5.81
43	509	0.72	0.03 ~ 4.49
44	309	0.66	0.03 ~ 3.98
45	144	0.41	0.03 ~ 3.43
46≤	127	0.30	0.02 ~ 1.67
全群	15,545	2.36	0.12 ~ 10.67

* JISART (日本生殖補助医療標準化機関) 各施設に通院する不妊症患者で当該試薬を用いて測定した16,526例のうち、多嚢胞性卵巣 (PCO) (939例) および早期卵巣不全 (POI) (42例) と診断された症例を除外した後の、女性15,545例のAMH測定値の年齢別分布 (中央値) をノンパラメトリック法により求められています。(国内検討データ) (試薬添付文書より)

【判定上の留意事項】

日本産科婦人科学会 生殖・内分泌委員会 生殖医療リスクマネジメント小委員会の報告では、AMH測定に際して留意すべき事項として次の4項目を挙げています。

- ① AMHは卵子の質とは関連しない。
- ② AMHの測定値は個人差が大きく、若年女性でも低い場合や高齢女性でも高い場合があり、測定値からいわゆる「卵巣年齢」の推定はできない。
- ③ 測定値と妊娠する可能性とは直接的な関連はなく、測定値から「妊娠できる可能性」を判定するのは不適切と考えられる。
- ④ 測定値が低い場合でも「閉経が早い」という断定はできない。